

Development of town planning as Little Kyoto in Tanagura Town, Fukushima prefecture and its characteristics

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-05-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 酒井, 宣昭, 坂本, 沙弥, 渡邊, 絢斗 メールアドレス: 所属:
URL	https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/24839

福島県棚倉町における 小京都としての町づくりの展開とその特徴

酒井 宣昭・坂本 沙弥・渡邊 絢斗

I. はじめに

各地には「小京都」と称する市や町がある。この小京都としての町づくりの起源は、室町時代から戦国時代と言われている（内田 2015）。「小京都」が広く知れ渡ったのは、1970年10月14日から始まった国鉄の国内旅行の大キャンペーン「ディスカバー・ジャパン」とそれを宣伝するメディアが各地の小京都を紹介したことによる（服部 1984、馬淵 1997、荒山 2000）。

1985年5月には、京都市と各地の小京都が集まる団体として「全国京都会議」が設立した。事務局は京都市観光協会内にある。全国京都会議に加盟するためには、①京都に似た自然景観、町並み、たたずまいがあること、②京都と歴史的なつながりがあること、③伝統的な産業、芸能があること、の3つの要件のうち1つ以上の要件に当てはまれば良い。

全国京都会議に加盟している市や町では、全国京都会議のWebサイトや共同宣伝パンフレットからも小京都としての町づくりを行っていることがわかるため、本研究では全国京都会議に加盟する市や町を「小京都」と捉えることにする。2021年9月10日時点では、京都市と39の市や町が全国京都会議に加盟している。小京都には、秋田県仙北市角館、宮城県大崎市岩出山、栃木県栃木市、栃木県足利市、埼玉県嵐山町、新潟県加茂市、長野県飯山市、岐阜県郡上 市八幡、三重県伊賀市上野、鳥取県倉吉市、愛媛県大洲市、高知県四万十市中村、鹿児島県南九州市知覧などがある。

小京都に関する主な研究は、①建築物の構造、材料、計画、デザイン、防災などの点より検討した建築学的研究（田邊・岩佐 2012、香月・

奥山 2017、香月・奥山 2018など）、②歴史学的研究（村井 1975など）、③民俗学的研究（松崎 2007など）、下記で紹介する④地理学的研究での蓄積がある。他には、⑤各地の小京都の歴史、名所、町づくり事業、行祭事などを紹介した記事（馬淵 1997、富田 2018など）も多い。地理学的研究では、鳥根県津和野町の町づくりについて検討した服部（1984）、高知県四万十市中村を事例に近世の町づくりについて検討した日野（1986）がある。また、各地に小京都が誕生した時期とその背景について検討した荒山（2000）、京都および小京都の成り立ちとその特性について検討した上野（2009）がある。さらに、山口市や秋田県仙北市角館、高知県安芸市などを事例に小京都の風景とそこから見える都市のイメージについて検討した内田（2015）、宮城県村田町を事例に全国京都会議があげる小京都の3つの要件への対応と町づくりについて検討した酒井・吉田（2017）などがある。

本研究の目的は、小京都としての町づくりの展開とその特徴を明らかにすることであるが、そのためには各地の小京都を事例とした研究の蓄積が必要である。各地の小京都では、①全国京都会議があげる小京都の3つの要件にどう対応しているのか明示していないことが多い（酒井・吉田 2017）。しかし、前述①を明示することは、それぞれの小京都の特徴や見所の明確化、観光パンフレットやポスターなどでの宣伝の強化、今後の町づくりの課題と中長期計画の策定などに役立つと考えられる（酒井・吉田 2017）。このような問題意識の下、酒井・吉田（2017）に続き、本稿では福島県棚倉町を事例として、①全国京都会議があげる小京都の3要件へどう対応しているのか、②小京都としての町づくりの展開とその特徴について明らかにする。研究

方法は、文献や資料、地形図、現地調査、聞き取り調査による。現地調査は2020年4月11日（土）、2020年12月12日（土）、2021年2月17日（木）、和洋菓子K店への聞き取り調査は2020年12月12日（土）、棚倉町観光協会へのメールでの聞き取り調査は2021年8月19日（木）に行った。現地調査と聞き取り調査の詳細は、各節の中で述べる。

本稿の構成は、まずⅠ章では全国京都会議があげる小京都の3要件、全国京都会議への加盟および脱退状況、小京都に関する研究について文献より整理した上で、本研究の目的と調査方法を述べる。Ⅱ章では、棚倉町の概要と全国京都会議があげる小京都の3要件への対応について、1. 棚倉町の概要、2. 全国京都会議への加盟と全国京都会議があげる小京都の3要件への対応—1つ目の要件—、3. 全国京都会議があげる小京都の3要件への対応—2つ目の要件—、4. 全国京都会議があげる小京都の3要件への対応—3つ目の要件—の順に検討する。Ⅲ章では、棚倉町における小京都としての町づくりの展開とその特徴について、1. 小京都としての町づくりの始まり、2. 小京都に関連する施設や行祭事、3. コンニャクイモの栽培に関するワークショップ、4. 八槻都々古別神社楽人会の活動、5. 宇迦神社例大祭の「棚倉秋祭り」の様子、6. 文化財の指定と地域の伝統芸能の受賞の順に検討する。最後のⅣ章では、本稿の要点をまとめる。

Ⅱ. 棚倉町の概要と全国京都会議があげる小京都の3要件への対応

1. 棚倉町の概要

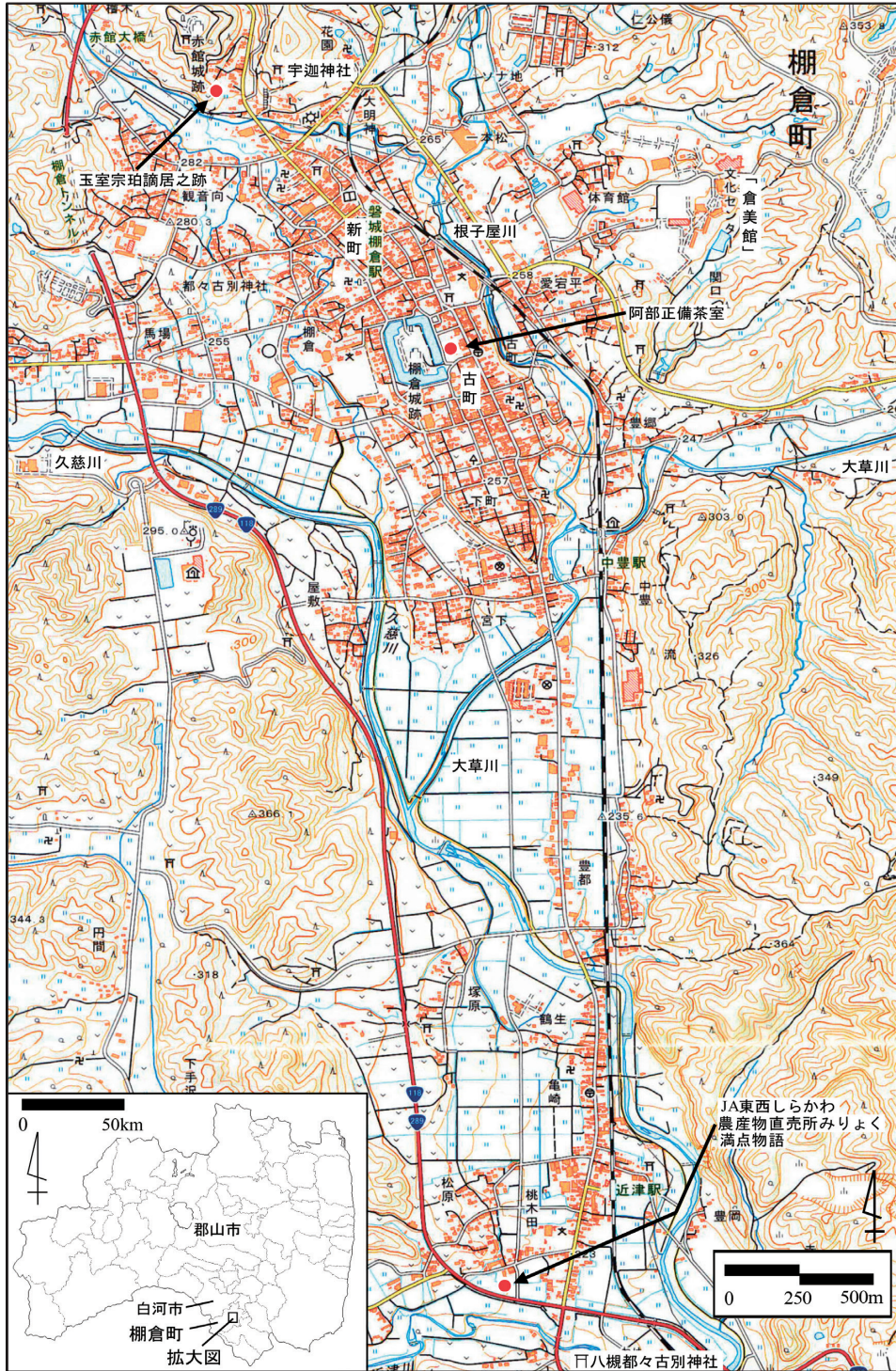
本節は、主に棚倉町史（1982）、棚倉町町勢要覧（2016b）、2020年4月11日（土）の現地調査で確認した赤館城跡にある棚倉町観光協会の説明パネルよりまとめる。これらの文献や資料によると、福島県の中通り地方の南部に位置する棚倉町は、その東部が鮫川村と浅川町に、西部が栃木県那須町と大田原市に、南部が塙町と矢祭町と茨城県大子町に、北部が白河市に

接している。棚倉町の総面積は159.93km²、東西の直線距離は最長で19.6km、南北の直線距離は最長で17.4kmである。

地形は、東部に阿武隈高地、西部に棚倉町、栃木県大田原市、茨城県大子町にまたがる八溝山地がある。阿武隈高地と八溝山地の間は谷底平野となっている。谷底平野の中央部は、八溝山地の最高峰である標高1,022mの八溝山を源流とする久慈川が西部から東部へと流れているが、その流れは棚倉城跡付近で南部へと変わる。標高は、八溝山の山頂1,022mからJR水郡線磐城棚倉駅や棚倉町役場付近の約260mまであり、その標高差は約760mとなっている。棚倉町は総面積の約75%が山地であるため、人々は久慈川やその支流の大草川や根子屋川などの流域に集落や耕地をつくり居住している。2万5千分の1地形図「棚倉」（2018）と「塙」（2017）の一部を示した第1図をみると、JR水郡線磐城棚倉駅や棚倉町役場、棚倉城跡、古町商店街、新町商店街などがある町の中心部は、久慈川の流域やその支流の大草川や根子屋川などの流域に立地していることがわかる。

主な交通網には、水戸市と会津若松市を結ぶ国道118号、新潟市といわき市を結ぶ国道289号、JR水郡線、ジェイアールバス関東株式会社「白棚線」がある。この中で、郡山駅と水戸駅を結ぶJR水郡線は、1897（明治30）年11月16日から1934（昭和9）年12月4日にかけて全線が開業した。郡山駅と水戸駅間の駅数は41駅であるが、うち棚倉町には北から順に磐城棚倉駅、中豊駅、近津駅の3駅がある。棚倉町役場への最寄りの駅は磐城棚倉駅である。郡山駅と磐城棚倉駅の距離は51.9km、所要時間は約65分、片道運賃は大人990円（小学生490円）、本数は上り下りともに全日8本となっている。

ジェイアールバス関東株式会社「白棚線」の前身は1916（大正5）年に開業したJR東北本線白河駅とJR水郡線磐城棚倉駅を結ぶ「白棚鉄道」であるが、1944（昭和19）年には経営不振を理由に廃線となった。1957（昭和32）年からは、駅と線路敷を撤去してバス専用道に転用したジェイアールバス関東株式会社「白棚線」



第1図 棚倉町の地形図

地形図は国土地理院発行の2万5千分の1「棚倉」（平成30年3月調製）と「埴」（平成29年3月調製）の一部を原寸のまま使用。左下の白地図は「CraftMAP」を使用。

が「白棚鉄道」とほぼ同じ区間を運行している。白河駅（JR東北本線に接続）と磐城棚倉駅（JR水郡線に接続）の間には、2020年5月時点で29の停留所がある。主な停留所は、白河駅、新白河駅（JR東北本線とJR東北新幹線に接続）、南湖公園、白河東工業団地、磐城金山、磐城逆川、磐城棚倉駅である。棚倉町役場への最寄りの停留所は磐城棚倉駅である。白河駅と磐城棚倉駅の距離は約25km、所要時間は約50分、片道運賃は大人800円（小学生400円）、座席は自由乗車制での運行、便数は平日が上り下りともに20便、土日祝日が上り17便、下り16便となっている。

赤館城は、北部の標高345mの赤館山の山頂にある山城であり、1625（寛永2）年に棚倉城が築城されるまでは棚倉の地を治めてきた。山田（1990、1997）によると、赤館城の築城時期は不明であるが、建武年間（1334～1337年）には赤館伊賀次郎が赤館城主であったとの記録が残っているとの記載がある。このことから、赤館城は建武年間以前に築城されたことがわかる。

1622（元和8）年には、5万石で入封した棚倉藩2代藩主の丹羽長重が1625（寛永2）年から2年かけて平城の棚倉城を築城した^{▼1}。現在の町割りの基盤となる城下町を整備したのは、1627（寛永4）年に5万石で入封した棚倉藩3代藩主の内藤信照である。この他、棚倉は中畑新田宿（矢吹町新町）、中畑宿（矢吹町）、棚倉宿（棚倉町）、東館宿（矢祭町）、明神峠（矢祭町と常陸太田市）、徳田宿（常陸太田市）、小中宿（常陸太田市）、大中宿（常陸太田市）、折橋宿（常陸太田市）、河原野宿（常陸太田市）、上潤宿（日立市）、町屋宿（常陸太田市）、太田宿（常陸太田市）、額田宿（那珂市）、菅谷宿（那珂市）、枝川宿（ひたちなか市枝川）の約103kmに至る棚倉街道の宿場町としても栄えた。1889（明治22）年4月1日には町村制施行にともない単独で棚倉町が発足した。1955（昭和30）年1月1日には棚倉町、社川村、高野村、近津・山岡村の1町3村が合併して新製の棚倉町が発足した。

商人町として発展した古町は、1940（昭和

15）年3月28日13：30頃に発生した火災が強風で拡大して一帯が焼失した。この火災は「棚倉大火」と呼ばれるが、その被害は焼失戸数が181戸、死者2人、負傷者5人であった。古町はその後に再建した。一方、新町は明治以降に発展した新開地である。現在は古町、新町ともに中心商店街となっている。

棚倉町の人口は、国勢調査によると、1950年が19,865人、1960年が18,755人、1970年が16,621人、1980年が16,105人、1990年が16,606人、2000年が16,376人、2010年が15,062人、2020年が13,343人であった。棚倉町の人口は漸減傾向にあり、1950年と70年後の2020年の比較では6,522人が減少している。

2. 全国京都会議への加盟と全国京都会議があげる小京都の3要件への対応— 1つ目の要件—

日本経済新聞の記事（2015年11月13日）、棚倉町広報誌「たなぐら」（2018年10月号）によると、棚倉町が全国京都会議に加盟したのは2015年である。棚倉町は、2011年3月11日の東日本大震災で発生した福島第一原子力発電所の事故後、その風評被害の影響で観光客が減少していた^{▼2}。そこで、小京都としての町づくりは、棚倉町の観光振興のために町長の湯座一平氏が提案して取り組んだものである。2015年4月には全国京都会議への加盟を申し込んだ。2015年10月2日には長野県飯山市開催の「第31回全国京都会議通常総会」へ湯座一平氏が出席した。棚倉町の全国京都会議への加盟は、この通常総会で承認された。

全国京都会議へ加盟するためには、全国京都会議があげる3つの要件のうち1つ以上に当てはまる必要がある。棚倉町は2つの要件に当てはまるが、Ⅱ章3節と4節ではそれぞれの要件について検討する。

1つ目の要件である「京都に似た自然景観、町並み、たたずまいがあること」については、京都市は京都盆地にあるのに対し、棚倉町は国土交通省水管理・国土保全局の資料（2008）によると阿武隈高地と八溝山地の間を流れる久慈

川上流部の谷底平野にある。棚倉町の地形は盆地でないため、1つ目の要件には当てはまらない。

3. 全国京都会議があげる小京都の3要件への対応—2つ目の要件—

2つ目の要件である「京都と歴史的なつながりがあること」については、紫衣事件と茶道がある。「紫衣」とは、伊藤(1993)や広辞苑(2018)によると高貴な色とされる紫色の法衣や袈裟のことであり、学識や人徳が卓越し人々を導くのにふさわしい高德の僧侶(高僧)には朝廷から紫衣の勅許が授与されてきた。これに対し、江戸幕府は1613(慶長18)年に寺院や僧侶に対する圧迫と、朝廷と幕府の関係を明示するために「勅許紫衣法度」と、臨濟宗大徳寺や臨濟宗妙心寺などの大寺に「入院法度」、1615(慶長20)年に「禁中並公家諸法度」を定め、朝廷は幕府の許可なしに紫衣を授与することを禁じた^{▼3}。しかし、後水尾天皇はこれまで通り幕府の許可なしに十数人の高僧に紫衣を授与した。

伊藤(1993)、高埜(2006)、広辞苑(2018)によると、法度に違反していることを知った江戸幕府3代将軍徳川家光は、1627(寛永4)年に多くの勅許を取り消すことを決め、京都所司代の板倉重宗には法度に違反した紫衣を取り上げることを命じた^{▼4}。朝廷はこれまで授与した紫衣の勅許を取り消すことに反対し、また大徳寺第154世住持の沢庵宗彭(1573~1645年)、大徳寺第147世住持の玉室宗珀(1572~1641年)、大徳寺第156世住持の江月宗玩(1574~1643年)、妙心寺第74世住持の単伝士印、妙心寺第141世住持の東源慧等の5人の高僧は、1628(寛永5)年に江戸幕府へ抗議書を提出した^{▼5}。しかし、徳川家光は1629(寛永6)年7月に江戸幕府が定めた法度に最後まで反対した沢庵宗彭、玉室宗珀、単伝士印、東源慧等の4人の高僧を流罪として処罰した。その流刑地は、沢庵宗彭が出羽国上山藩、玉室宗珀が陸奥国棚倉藩、単伝士印が出羽国本荘藩、東源慧等が陸奥国弘前藩(通称、津軽藩)であった。この一連の事件は紫衣事件と呼ばれる。

棚倉町地域創生課の資料(2020)、2020年4

月11日(土)の現地調査で確認した「玉室宗珀謫居之跡」にある棚倉町伝統文化活性化実行委員会の説明パネルによると、棚倉藩2代藩主の内藤信照は、大徳寺の塔頭の1つである芳春院の玉室宗珀の身柄を預かった^{▼6}。玉室宗珀は1629(寛永6)年7月~1632(寛永9)年7月まで赤館城跡の南麓にある光徳寺に設けた草葺きの庵(=草庵)で謫居した。赤館城跡は1870(明治3)年以降にサクラの木の植樹と赤館公園を整備した。玉室宗珀が謫居した草庵跡には、その300年後の1930(昭和5)年に石沢寛一、小川芋銭、片山麟一などの有志によって「玉室宗珀謫居之跡」の石碑を建立した(写真1、第1図)^{▼7▼8}。石沢寛一は1919(大正8)年刊行の『東白川郡史』を編纂した人物であるが、石碑を建立した目的や経緯は不明である。ただし、紫衣事件とこの事件に関わった玉室宗珀の流刑地が棚倉であったことは300年後の1930(昭和5)年時点でも棚倉町の歴史として伝えられていることが伺える。石碑を建立した目的や経緯、石碑の活用と地域への伝承については、新たな史料が見つかることを期待したい。



写真1 「玉室宗珀謫居之跡」
20.4.11撮影

次に、宗徧流とは戸田(1987、1993)、筒井(2006)によると、京都二本松にある長徳寺の

四世の明覚の子として1627（寛永4）年に生まれた山田宗徧（1627～1708年）が茶匠の千宗旦（1578～1658年）の下で19歳より修業した後、皆伝を受けて京都鳴滝にある三寶寺の四方庵で成立した茶道の流派である▼⁹。山田宗徧の茶書には、1690（元禄3）年に刊行した『茶道便蒙抄』、1691（元禄4）年に刊行した『茶道要録』、1701（元禄14）年に刊行した『利休茶道具図絵』がある。宗徧流は流祖の山田宗徧、二世の山田宗引（1668～1724年）、三世の山田宗円（1710～1757年）、四世の山田宗也、五世の山田宗俊、六世の山田宗学、七世の山田宗寿、八世の山田宗有、九世の山田宗白、十世の山田宗圀（流祖の山田宗徧を名乗る）、十一世の山田長光（流祖の山田宗徧を名乗る）が皆伝を受けて現在に至る。筒井（1987）によると、宗徧流は武家的色彩が比較的濃く反映されており、儀式典礼に使われる茶風であるという。棚倉町地域創生課の資料（2020）によると、棚倉藩8代藩主の小笠原長恭が1746（延享3）年に入封した際には、茶頭として宗徧流三世の山田宗円（1710～1757年）が棚倉に在住した。大日本人名辞書刊行会（1974）、戸田（1987）、上田・西澤ほか（2002）、茶道宗徧流不審庵のWebサイトによると、二世の山田宗引は流祖の山田宗徧の娘婿が皆伝を受け、三世の山田宗円は二世の山田宗引の下で修行して皆伝を受けた▼¹⁰。また、三世の山田宗円は流祖の山田宗徧の三男の宗健の子であり、山田宗徧からみると孫である。三寶寺のWebサイトによると、三寶寺の四方庵跡には流祖の山田宗徧の記念碑が十世の山田宗圀により建立されたとの記載がある▼¹¹。

棚倉町地域創生課の資料（2020）によると、棚倉町では茶道愛好家の中に江戸時代以降の茶道の道具、器、写真があることを確認している。棚倉町には茶道愛好家からなる棚倉茶道会があり、その会員数は、棚倉町役場棚倉町生涯学習人材バンクのWebページによると2021年7月18日時点で21人である▼¹²。棚倉茶道会の主な活動は、①棚倉町の幼稚園や小学校の茶道教室の開催と、②棚倉町の行祭事の茶会の開催である。

前述①の小学校の茶道教室は、6年生の社会科学習の一環として棚倉茶道会の会員が講師となり6月下旬から7月上旬に年1回開催している。小学校に設けた和室では、茶室の入り方、茶碗の運び方や渡し方、受け取り方、お茶の入れ方、和菓子の食べ方などの作法を学習する。茶道教室で食べる和菓子は棚倉町の和菓子店が製造している。次に前述②には、毎年4月中旬に開催する「十万石棚倉城まつり」と、毎年9月下旬～11月中旬に開催する「秋の大茶会」がある。「十万石棚倉城まつり」の概要と入込数は、Ⅲ章2節の中で述べる。棚倉町教育委員会の資料（2019）によると、「秋の大茶会」は棚倉町教育委員会が茶道を体験し身近に感じてもらうため2016年より開催している。2016年9月25日（日）の「秋の大茶会」は、棚倉町文化センター「倉美館」、阿部正備茶室、長久寺、八槻都々古別神社で開催している。同じく2017年9月30日（土）は阿部正備茶室、蓮家寺、八槻都々古別神社、2018年11月11日（日）は八槻都々古別神社、如意輪寺、山本不動尊で開催している。2019年11月10日（日）は八槻都々古別神社、如意輪寺、山本不動尊で開催し、時間は10：00～15：00、参加費は前売券として販売するお茶席券3席分1,000円、当日券として販売するお茶席券1席分400円（お菓子が無くなりしだい終了）である。「秋の大茶会」は棚倉茶道会や福島大学裏千家茶道部の協力の下、会場は棚倉町文化センター「倉美館」、阿部正備茶室、蓮家寺、長久寺、如意輪寺、八槻都々古別神社、山本不動尊の中より毎年2～4か所で開催している▼¹³。

2020年12月12日（土）の現地調査で確認した阿部正備茶室にある棚倉町教育委員会の説明パネルによると、阿部正備（1823～1874年）は1866（慶応2）年に棚倉藩17代藩主の阿部正静（1849～1878年）に従い棚倉に移住した。石井可汲が1897（明治30）年に刊行した『東白川郡沿革私考』には、阿部正備が所有していた茶室を明治維新後に古町の商家である石澤家が譲り受けて自宅の屋敷に移築したとの記載がある▼¹⁴。棚倉町地域創生課の資料（2020）によると、棚倉町では2011年に茶道の活動拠点とす

るために棚倉城跡の東隣に阿部正備茶室を移築し復元した(第1図)▼¹⁵。茶室の造りは寄棟造り木羽葺きの建造物で、間取りは四畳半(京間)の一隅に水屋を配置した四畳席となっている。この茶室は、『東白川郡沿革私考』に記載がある造りや間取りに合わせて復元している。

4. 全国京都会議があげる小京都の3要件への対応—3つ目の要件—

3つ目の要件である「伝統的な産業、芸能があること」については、伝統的な産業にはコンニャクイモの栽培がある。伝統的な芸能には、①国指定重要無形民俗文化財の「都々古別神社の御田植」(以下、御田植)と福島県指定重要無形民俗文化財の「八槻都々古別神社の神楽」を奉納する八槻都々古別神社の「御田植祭」、②福島県指定重要無形民俗文化財の「八槻都々古別神社の神楽」を奉納する八槻都々古別神社例大祭の「霜月大祭」がある▼¹⁶。また、③新町組とい組の屋台(山車)がおはやしや和太鼓などを披露しながら練り歩く宇迦神社例大祭の「棚倉秋祭り」がある。

コンニャクイモの栽培は、2020年12月12日(土)の現地調査で確認した「時の鐘ポケットパーク」にある棚倉藩歴代藩主の主な功績を刻んだ碑文によると1854(嘉永7)年に6万石で入封した棚倉藩14代藩主の松平康圭が藩政改革としてコンニャクイモの栽培や機業(はた織り)、瓦焼、牧場(放牧)、梨子園などを奨励したことに始まる▼¹⁷。棚倉町地域創生課の資料(2020)によると、石井可汲が1897(明治30)年に刊行した『東白川郡沿革私考』には、コンニャクイモが「本郡益産出遠近に輸出し国産の随一となる。」との記載があることから、棚倉町では明治時代においてもコンニャクイモの栽培がさかんであったといえる。福島民友新聞の記事(2016年11月27日)によると、棚倉町、矢祭町、埴町、鮫川村からなる東白川郡のコンニャクイモの生産量は1960年代後半がピークであるという。

生産量のデータではないが、農林水産省「2015年農林業センサス」によると、福島県のコンニャクイモの作付面積は17ha、作付経営体

数は70経営体である。市町村別内訳では、①棚倉町の作付面積11ha、経営体7(うち旧近津村の作付面積11ha、経営体7)、②福島市の作付面積2ha、経営体7、③二本松市の作付面積1ha、経営体8、④古殿町の作付面積1ha、経営体7、⑤矢祭町の作付面積1ha、経営体5と続いている。このデータより、棚倉町のコンニャクイモの作付面積は福島県内で約65%を占めること、棚倉町内では近津地区でコンニャクイモの栽培が行われていることがわかる。

棚倉町のコンニャクイモの収穫量は、東北農政局福島農政事務所「福島農林水産統計年報」によると1998年525t、2000年334t、2003年259t、2006年308tである。また、棚倉町のコンニャクイモの産出額は、農林水産省「2017年産福島県市町村別農業産出額(推計)」によると米9億6,000万円、イチゴ8,000万円、トマト4,000万円、キュウリ3,000万円に続く2,000万円である。

2020年12月12日(土)の現地調査によると、コンニャク製造業者は棚倉町に3軒があることを確認した。主なコンニャク製品は、製造業者1の「初花さしみこんにゃく」、製造業者2の「家伝つるりん蒟蒻棚倉づくり」(550g)、製造業者3の「こんにゃく」である。これらのコンニャク製品は、主に各製造業者での直売の他、産地直売所の「JA東西しらかわ農産物直売所みりよく満点物語」(写真2)と「農産物直売所田舎すだち」で販売している。



写真2 JA東西しらかわ農産物直売所
みりよく満点物語 20.12.12撮影

2020年12月12日（土）の現地調査によると、「JA東西しらかわ農産物直売所みりよく満点物語」は、JA東西しらかわが経営する店舗で、開業は2013年3月29日である。所在地は国道118号沿いの棚倉町大字下山本不動字愛宕平15-1である（第1図）。敷地内には、①主に地場産品を扱う産地直売所、②地場産品を主とした料理を提供するレストラン「山ぼうし」、③地元の牛乳やその牛乳で製造するソフトクリームなどを販売する「ミルク工房」がある。前述①、②、③の店舗面積は1278.8m²である。駐車場は普通車が約100台収容できる。休日は産地直売所とミルク工房が毎月第3火曜日、レストランが毎週火曜日である。福島県企画調整部統計課「福島県統計年鑑」によると、「JA東西しらかわ農産物直売所みりよく満点物語」の入込数は2016年が216,000人、2017年が221,750人、2018年が256,067人である。3年次の統計をみると、「JA東西しらかわ農産物直売所みりよく満点物語」の入込数は、20万人台と多いことがわかる。

福島民友新聞の記事（2016年11月27日）によると、製造業者2の「家伝つるりん蒨棚倉づくり」は煮物料理やステーキのような焼物料理の他、水で冷やしてショウガ醤油、きな粉と黒蜜をかけてデザートのようにして食べることもできる。また、「家伝つるりん蒨棚倉づくり」は量的に少ないものの東京や大阪などの飲食店からの注文もあるという。

棚倉町総務課の資料（2020）によると、「家伝つるりん蒨棚倉づくり」は棚倉町のふるさと納税の返礼品46商品の1つになっており、10,000円以上を寄付した場合は製造業者2の「家伝つるりん蒨棚倉づくり」550g×2丁と「にんにく卵黄みそ「みなぎる力」」140g×2個をセットにした商品が選択できる。棚倉町のふるさと納税の返礼品では、コンニャク製品が製造業者2の1商品のみである。「家伝つるりん蒨棚倉づくり」は、棚倉町の地場産品の情報発信、認知度向上、消費拡大などを目的とする「棚倉ブランド認証」の第4号に登録されている。

御田植は、2020年12月12日（土）の現地調査で確認した八槻都々古別神社にある棚倉町教育

委員会の説明パネル、2021年2月17日（水）の現地調査によると、八槻都々古別神社の旧社家からなる八槻都々古別神社楽人会が稲作の様子を模擬的に演じ豊作を祈願する民俗芸能である。御田植の起源は不明であるが、室町時代にはすでに行われていたと伝えられている。毎年旧暦1月6日には、八槻都々古別神社で「御田植祭」を10:00~11:30頃に開催している（第1図）¹⁸。この祭事では、福島県指定重要無形民俗文化財の「八槻都々古別神社の神楽」の中で七座の神楽と、御田植を奉納する。七座の神楽は扇舞、幣舞、白枚舞、弓舞、剣舞、神扇舞、撤舞、神子（獅子舞）からなる。御田植祭には八槻都々古別神社楽人会の他、棚倉町八槻地区の住民からなる御田植保存会、地元の棚倉町立近津小学校の郷土史クラブも参加して演じる。

御田植は、八槻都々古別神社の拝殿や太鼓を田に見立てる、餅の歟や苗に見立てた松の小枝などで田植え作業を表現する、烏帽子や狩衣、白足袋姿の装束である、方言と擬音語のせりふが特徴的な能狂言風の所作である。「御田植祭」は、八槻都々古別神社の宮司の祝詞奏上に続いて、楽人が「神楽（松舞、巫女舞、幣舞）」、「せき検分」、「めばらい」、「田うない触れ」、「田うない」、「くろば落とし」、「水取り」、「代かき」、「畔ぬり」、「あしおとめ」、「お種祈祷」、「種播き」、「烏追い」、「田植え触れ」、「田植え」、「水口祭り・天狐の舞い」、「中昼（飯）」の順に演じる¹⁹。最後は楽人全員で「中飯中飯」と言いながら短冊切りの餅を参拝者と参列者へ盛大に投げ配って終了する。参道や駐車場には地場産品や飲食の屋台が出店する。

「霜月大祭」は、2020年12月12日（土）の現地調査によると毎年12月第2土曜日と日曜日に開催する八槻都々古別神社例大祭のことである。拝殿では五穀豊穡を祈願し、福島県指定重要無形民俗文化財の「八槻都々古別神社の神楽」の中で太々神楽と七座の神楽を奉納する。また、八槻都々古別神社の参道や駐車場では「八槻市」を開催している。そこではユズやショウガ、ゴボウ、土ネギ、ニンジン、もち米などの地場産品や、焼きそば、たこ焼、からあげ、

チキン&ポテト、チーズドッグ、たい焼、植木、正月用しめ縄などの屋台が出店する。古くはその年の種もみを「ツツコ」、「ツトコ」、「ツトッコ」と呼ばれる藁苞わらづとに入れて八槻都々古別神社へ奉納し、新しい藁苞をもらう風習に合わせて「八槻市」を開催したことが始まりと伝えられている。「八槻市」は地域住民に「やつきさま」と呼ばれて親しまれている。

「棚倉秋祭り」は、棚倉町地域創生課の資料(2020)によると毎年10月第2土曜日と日曜日に開催する宇迦神社例大祭のことである。宇迦神社の起源と社殿の創建については、宗田(1990)、棚倉町教育委員会の資料(2019)、2020年4月11日(土)の現地調査で確認した赤館城跡にある棚倉町観光協会の説明パネルによると神亀年間(724~729年)に五穀を始めすべての食物に功德がある倉稲魂として宇賀明神を祀ったのが始まりと伝えられている。この当時の宇迦神社の社殿は飯野村(現、棚倉町上台、玉野、福井)にあった。現在の宇迦神社がある棚倉町風呂ヶ沢には1610(慶長15)年に棚倉藩初代藩主の立花宗茂が遷宮し、社殿は1701(元禄14)年に棚倉藩5代藩主の内藤式信が再建した(第1図)。棚倉町地域創生課の資料(2020)によると、宇迦神社例大祭の起源は不明であるものの、1656(明暦2)年に刊行された『沙汰治帳』さたぢちやうには宇迦神社祭礼の記載があるという。このことから、宇迦神社例大祭は、現在地に宇迦神社を遷宮した江戸時代前期にはすでに開催していたことが伺える。

Ⅲ. 棚倉町における小京都としての町づくりの展開とその特徴

1. 小京都としての町づくりの始まり

棚倉町が全国京都会議に加盟した経緯は、Ⅱ章2節の通りである。棚倉町の町民に対しては、棚倉町広報誌「たなぐら」の2015年11月号と2018年10月号で2015年10月2日に長野県飯山市で開催した全国京都会議の通常総会において棚倉町の全国京都会議への加盟が承認されたこと、棚倉町の小京都らしさの概要を掲載した。

2014年9月19日に策定した「第6次棚倉町振興計画(2015年度~2024年度)」には、全国京都会議に加盟する前のため小京都としての町づくりが反映されていない。2023年度に「第7次棚倉町振興計画」を策定する時点では、全国京都会議に加盟して8年が経過するため、小京都としての町づくりの方向性に変更がない場合は、小京都としての町づくりが明示されるのではないかと考える。そのため、現時点では行政、商工会、様々な団体がアイデアを出しながら小京都としての町づくりに取り組んでいる。小京都ではキャッチフレーズを設定している市や町が多いが、棚倉町は「東北の小京都棚倉」というキャッチフレーズを設定している。小京都に関連する施設や行祭事はⅢ章2節以降で明らかにするが、それ以外の取り組みは本節の中で述べる。

2020年12月12日(土)の和洋菓子K店への聞き取り調査、福島県立修明高等学校の資料(2020)によると、棚倉町商工会では新町商店街や古町商店街の各店舗の前や学校の玄関などに「2020年度棚倉町地域活性化イメージアップ事業」を活用して「東北の小京都棚倉」の看板を取り付けた「滅大火の鑑賞桶」を設置した(写真3)。古町ではⅡ章1節の通り1940(昭和15)年3月28日に「棚倉大火」が発生したことから、棚倉町商工会では大火を撲滅する「滅大火」と略して周知し、合わせて「東北の小京都棚倉」を宣伝するために本事業を行った²⁰。



写真3 滅大火の鑑賞桶 20.12.12撮影

2. 小京都に関連する施設や行祭事

全国京都会議があげる2つ目の要件「京都と歴史的なつながりがあること」に関連する施設や行祭事は、Ⅱ章3節の通り①紫衣事件とこの事件に関わった玉室宗珀の流刑地の棚倉で1629（寛永6）年7月～1632（寛永9）年7月まで謫居した草庵跡の「玉室宗珀謫居之跡」である。茶道では、その体験ができる②「阿部正備茶室」と③4月中旬に開催する「十万石棚倉城まつり」と④9月下旬～11月中旬に開催する「秋の大茶会」がある。

全国京都会議があげる3つ目の要件「伝統的な産業、芸能があること」に関連する施設や行祭事は、Ⅱ章4節の通り①コンニャクイモの栽培に関するワークショップ『棚倉・矢祭の名産「こんにゃく」のこと、もっと知ろう!』である。Ⅲ章3節ではワークショップの詳細について述べる。

続いて、②毎年旧暦1月6日には七座の神楽と御田植を奉納する八槻都々古別神社の「御田植祭」がある。また、③毎年12月第2土曜日と日曜日には、太々神楽と七座の神楽を奉納する八槻都々古別神社例大祭の「霜月大祭」がある。さらに④毎年10月第2土曜日と日曜日には、新町組とい組の屋台（山車）がおはやしや和太鼓などを披露しながら練り歩く宇迦神社例大祭の「棚倉秋祭り」がある。Ⅲ章4節では八槻都々古別神社楽人会の活動、同5節では「棚倉秋祭り」の様子、同6節では文化財の指定と地域の伝統芸能の受賞について述べる。

福島県企画調整部統計課「福島県統計年鑑」によると、「十万石棚倉城まつり」の入込数は2016年が20,000人、2017年と2018年が15,000人である。全国京都会議の観光パンフレット（2017）によると、「十万石棚倉城まつり」は毎年4月中旬の土曜日と日曜日の10:00～18:00に棚倉城跡で開催している。主催は棚倉まつり実行委員会である。「十万石棚倉城まつり」では、ステージイベント、火縄銃砲術演武、お国替駕籠競争、友好都市である埼玉県川越市の川越藩行列保存会による武者行列、棚倉町の小学校の鼓笛隊によるパレード、茶道の体験など

を行っている。また、会場には地場産品や飲食物などの屋台が出店する。

3. コンニャクイモの栽培に関するワークショップ

一般社団法人ニワトコの資料（2019）によると、2019年11月9日（土）には一般社団法人ニワトコが主催するワークショップ『棚倉・矢祭の名産「こんにゃく」のこと、もっと知ろう!』を開催した²¹。主な内容は、①コンニャクイモ掘り体験、②貯蔵および粉加工の見学、③コンニャク製品で調理する「いなりずし」クッキングである。当日は、一般社団法人ニワトコの所在地である棚倉町大字下山本字左近田2へ8:45に集合し、徒歩で棚倉町下山本松原にあるコンニャクイモの栽培地で前述①を行う。前述①終了後は観光バスで移動しながら矢祭町にあるコンニャク製造業者で前述②と、棚倉町文化センター「倉美館」で前述③を順に行う。解散は一般社団法人ニワトコである。

募集人数は小学生、中学生、高校生が合わせて25人、大学生、一般、引率保護者が合わせて10人である。参加料金は無料で、軍手、タオル、飲み物、クッキング材料は主催者が準備する。参加者は長靴、長そで、長ズボン、汚れても良い服装で集合する。講師は棚倉町のコンニャク製造業者の代表取締役社長、東京棚倉会理事、一般社団法人ニワトコ代表理事の3人が担当する。

4. 八槻都々古別神社楽人会の活動

棚倉町役場企画情報課の資料（2016b）、棚倉町地域創生課の資料（2020）によると、八槻都々古別神社に伝承されている神楽や御田植は、八槻都々古別神社の旧社家が楽長を務める八槻都々古別神社楽人会が継承している。八槻都々古別神社楽人会の主な活動は、①太々神楽や七座の神楽などの約60の神楽や御田植を継承し、その神楽や御田植は八槻都々古別神社の「歳旦祭（元旦祭）」、「節分祭」、「御田植祭」、「霜月大祭」などの行祭事で奉納すること、②棚倉町の行祭事や八槻都々古別神社以外の神社の行祭事などで神楽や御田植を演じること、③

神楽や御田植の継承と地域への伝承のために記録ビデオの作成や棚倉町の小学校などで指導を行うことである。

棚倉町教育委員会の資料（2019）より前述②の例についてみると、2015年10月10日（土）には棚倉町文化センター「倉美館」で開催した「奥州棚倉藩評定——関ヶ原合戦からの復活——」の中で福島県指定重要無形民俗文化財の「八槻都々古別神社の神楽」を演じている。また、2016年9月24日（土）には棚倉町文化センター「倉美館」で開催した「奥州棚倉藩評定～復活の城 赤館城と棚倉城～」の中で同じく「八槻都々古別神社の神楽」を演じている。

福島民友新聞の記事（2004. 1. 30）、一般財団法人地域伝統芸能活用センターの資料（2012）、三橋編（2016）より前述③の例についてみると、御田植保存会では八槻都々古別神社楽人会の指導の下、神楽や御田植を練習している。御田植保存会は、1975年に棚倉町八槻地区の住民約200戸により結成した会であるが、八槻地区では古くから農業がさかんであり、八槻都々古別神社は豊作を祈願する神社として八槻地区の住民の精神的支柱であったことから御田植保存会の結成へと至った。毎年旧暦1月6日に八槻都々古別神社で開催する「御田植祭」では、おはやしを務める他、参拝者に対しては暖房の準備、御神酒や甘酒の振る舞いなどを行っている。また、棚倉町立近津小学校の郷土史クラブでは、クラブ活動の一環として1998年より八槻都々古別神社楽人会楽長の指導の下、御田植の学習と練習を年に3～4回行っている。その成果は主に近津小学校で毎年11月に開催する学習発表会や、「御田植祭」で披露している。

5. 宇迦神社例大祭の「棚倉秋祭り」の様子

棚倉町では、「棚倉秋祭り」の入込数を集計していないが、小京都に関連した行祭事の中ではYouTubeより「棚倉秋祭り」の来訪者が最も多い印象を受ける。本節では例年における「棚倉秋祭り」の様子について棚倉町地域創生課の資料（2020）、2018年開催のポスターとパンフレット、YouTubeより明らかにする²²。



写真4 「棚倉秋祭り」のポスター（2018年）

これらの資料によると、「棚倉秋祭り」は毎年10月第2土曜日の宵まつりと日曜日の本まつりからなる宇迦神社例大祭である（写真4）。主催は棚倉秋まつり実行委員会、共催は宇迦神社、新町組、い組、後援は棚倉町と棚倉町商工会である。新町組は棚倉城跡を境にして北部区域に属する氏子からなり、い組は棚倉城跡を境にして南部区域に属する氏子からなる。江戸時代前期に発展した古町は、明治以降に発展した新町よりも区域が広い。2021年8月19日（木）の棚倉町観光協会へのメールでの聞き取り調査によると、「い組」の由来は棚倉町で一番目に立ち上げられた祭事組だったため、いろは歌の「いろはにほへと…」の一字目の「い」ととって「い組」としたようである。

「棚倉秋祭り」の全体の準備は、約1か月前より新町組、い組それぞれに始める。2週間前にはお囃子練習場に大人と子どもが集合してお囃子や神事舞「浦安の舞」などの練習を始める。お囃子練習場は新町組1か所、い組3か所がある。1週間前には屋台置場で屋台（山車）の準

備を始める。屋台置場は新町組1か所、い組3か所があり、屋台（山車）は宵まつり、本まつりともに新町組2台、い組3台を出す。3日前には店舗や住宅の軒先にしめ縄を張り、神社や祠ほこらなどの前に旗を立てる。旗場は新町組4か所、い組8か所がある。

宵まつりの日は、宇迦神社に新町組とい組の役員が集合して10:00より神事を行う。宵まつりは15:00～21:00、本まつりは10:00～21:00であるが、この時間帯は新町商店街と古町商店街が車両通行止めとなる。新町商店街や古町商店街には、宵まつり、本まつりともに歩道寄りに焼きそば、たこ焼、お好み焼、フランクフルト、からあげ、牛串、ポテト、大判焼、バナナチョコ、クレープ、かき氷、ボトルジュース、トロピカーナなどの屋台が出店する。また、多くの店舗では店舗前や駐車場にイスやテーブル、

ゴミ箱を準備し、飲食や休憩ができる場所を設けている。来訪者駐車場は、いずれも無料の棚倉町城跡北駐車場約20台、棚倉町城跡南駐車場約100台、亀ヶ城公園駐車場などとなっている。

新町組は宵まつり、本まつりともに屋台（山車）1号車、屋台（山車）2号車が運行ルートを1回ずつ引手の「前へ、前へ！」や「ヨイサー、ヨイヤサー！」のかけ声とともに練り歩く。新町組の屋台（山車）は、棚倉城跡の北部区域にある新町商店街を中心に運行する（第1図）。運行ルートの随所ではおはやし、民謡、和太鼓、大道芸（ストリートパフォーマンス）、日本舞踊などを行っている。本祭り（第1表）についてみると、屋台（山車）1号車は8か所、2号車は7か所で興行する。うち1か所は1号車と2号車が合同で興行し、うち3か所は1号車と

第1表 新町組の本まつりの屋台（山車）興行

屋台（山車）1号車			屋台（山車）2号車		
場所	時間	主な演目	場所	時間	主な演目
1	10:25～	おはやし	5	10:40～	おはやし
2	12:00～	おはやし、日本舞踊、大道芸（ストリートパフォーマンス）	9	11:50～	おはやし
3	13:30～	おはやし	10	13:20～	おはやし
4	14:10～	おはやし	11	14:45～	おはやし
5	14:50～	おはやし	6	15:40～	おはやし、大道芸（ストリートパフォーマンス）、写真撮影
6	15:35～	おはやし、大道芸（ストリートパフォーマンス）、写真撮影	4	17:15～	おはやし
7	17:25～	おはやし	8	17:45～	民謡、三味線、和太鼓、日本舞踊、大道芸（ストリートパフォーマンス）
8	19:25～	開会宣言、組頭挨拶、御来賓挨拶、手締め、祝賀花火打ち上げ、餅まき		19:25～	開会宣言、組頭挨拶、御来賓挨拶、手締め、祝賀花火打ち上げ、餅まき
	19:50～	千秋楽大曳違い御披露目		19:50～	千秋楽大曳違い御披露目

グレーの場所では、屋台（山車）1号車と2号車が合同で興行する。または同じ場所で時間帯を変えて興行する。
大屋台興行運行予定パンフレットより作成。

2号車が同じ場所で時間帯を変えて興行する。

一方、い組は宵まつり、本まつりともに屋台(山車)1号車、屋台(山車)2号車、屋台(山車)3号車が1回ずつ引手の「前へ、前へ!」や「ヨイサー、ヨイヤサー!」のかけ声とともに練り歩く。い組の屋台(山車)は、棚倉城跡の南部区域にある古町商店街を中心に運行する(第1図)。運行ルートの随所ではおはやし、民謡、日本舞踊、餅まきなどを行っている。本祭り(第2表)についてみると、1か所では屋台(山車)1号車、2号車、3号車が合同で興行する。他の6か所は1号車が3か所、2号車が2か所、3号車が1か所で興行する。

2021年8月19日(木)の棚倉町観光協会へのメールでの聞き取り調査によると、運行ルートの中で興行する場所は、新町組、い組ともに店舗からの協賛金の挨拶回りの都合上、毎年若干変化するとのことであった。

「棚倉秋祭り」の会場である古町商店街と新町商店街について概観すると、棚倉町では1940(昭和15)年3月28日に発生した「棚倉大火」で古町の大部分が焼失したため、商家や蔵などの建造物や町並みは残っていない。創業が古い店舗では、「棚倉大火」後に再建している。棚倉町教育委員会の資料(2015)と棚倉町物産振興会の資料(2017)によると、古町商店街には文化年間(1804~1818年)に創業した和菓子の「久桁屋入野堂」、1810(文化7)年に創業し

た呉服、衣料品、寝具の「特撰呉服塩庄」、1879(明治12)年に創業した金物の「油善(株)」、1903(明治36)年に創業した洋菓子の「ふらんす菓子コミネヤ」、1968(昭和43)年創業の「なかや文具店」、米や肥料の「石安米肥店」、洋食レストランの「食彩工房もみじ亭」、「半田茶舗」、「松本酒店」などがある。また、新町商店街には1939(昭和14)年に創業した「和洋菓子甘盛堂」、自転車の「やまとや輪業商会」、野菜や果物の「丸美屋青果」、「斎子酒店」などがある。

6. 文化財の指定と地域の伝統芸能の受賞

棚倉町役場地域創生課の資料(2020)によると、棚倉町には2021年9月1日時点で国指定10件、県指定17件、町指定9件の文化財がある。小京都に関連する施設や行祭事では、文末脚注15の通り棚倉町指定有形文化財の「阿部正備茶室」、文末脚注16の通り国重要無形民俗文化財の「都々古別神社の御田植」と、福島県重要無形民俗文化財の「八槻都々古別神社の神楽」の3つの文化財が指定を受けている。

一般財団法人地域伝統芸能活用センターの資料(2012b)、旬刊発行新聞の記事(2012.3.12)によると、2012年度には一般財団法人地域伝統芸能活用センターが主催する「地域伝統芸能全国大会福島大会ふるさとの祭り2012」において「八槻都々古別神社楽人会・御田植保存会の七座の神楽・太々神楽・御田植神事」(推薦者:

第2表 い組の本まつりの屋台(山車)興行

屋台(山車)1号車		屋台(山車)2号車		屋台(山車)3号車	
場所	時間	場所	時間	場所	時間
1	10:15~10:55	1	—	1	—
2	—	2	11:40~12:10	2	—
3	—	3	—	3	14:30~15:00
4	—	4	14:50~15:30	4	—
5	16:00~17:30	5	16:00~17:30	5	16:00~17:30
6	18:50~19:15	6	—	6	—
7	20:05~20:35	7	—	7	—

グレーの場所では、屋台(山車)1号車~3号車が合同で興行する。
大屋台興行運行予定パンフレットより作成。

福島県文化振興課)が「第20回高円宮殿下記念地域伝統芸能賞」を受賞した^{▼23}。「高円宮殿下記念地域伝統芸能賞」とは、高円宮殿下のご遺徳を受けて1993年に創設され、地域の伝統芸能の保存、継承、活用面で功績が認められる個人または団体に授与する賞である。

IV. おわりに

本稿では、福島県棚倉町を事例として、①全国京都会議があげる小京都の3つの要件へどう対応しているのか、②小京都としての町づくりの展開とその特徴について、文献や資料、地形図、現地調査、聞き取り調査により検討した。本稿で明らかとなったことは、以下の通りである。

棚倉町は、2011年3月11日の東日本大震災で発生した福島第一原子力発電所の事故後、その風評被害の影響で観光客が減少していた。そこで、小京都としての町づくりは、棚倉町の観光振興のために町長の湯座一平氏が提案して取り組むこととなった。全国京都会議には2015年に加盟した。

全国京都会議があげる小京都の1つ目の要件「京都に似た自然景観、町並み、たたずまいがあること」については、京都市は京都盆地にあるのに対し、棚倉町は阿武隈高地と八溝山地の間を流れる久慈川上流部の谷底平野にある。棚倉町の地形は盆地でないため、1つ目の要件には当てはまらない。

全国京都会議があげる小京都の2つ目の要件「京都と歴史的なつながりがあること」については、①紫衣事件と②茶道がある。①紫衣事件では京都にある大徳寺の塔頭の1つ芳春院の玉室宗珀の流刑地が棚倉であった。玉室宗珀が1629(寛永6)年7月～1632(寛永9)年7月まで謫居した草庵跡には、1930(昭和5)年に有志が「玉室宗珀謫居之跡」の石碑を建立した。石碑を建立した目的や経緯は不明であるが、紫衣事件とこの事件に関わった玉室宗珀の流刑地が棚倉であったことは、300年後の1930(昭和5)年時点でも棚倉町の歴史として伝えられていることが伺える。②宗徧流は、京都二本松に

ある長徳寺に生まれた山田宗徧(1627～1708年)が茶匠の千宗旦の下で19歳より修業した後、皆伝を受けて京都鳴滝にある三寶寺の四方庵で成立した茶道の流派である。棚倉藩8代藩主の小笠原長恭が1746(延享3)年に入封した際には、茶頭として宗徧流三世の山田宗円(1710～1757年)が棚倉に在住した。宗徧流二世の山田宗引は流祖の山田宗徧の娘婿が皆伝を受け、三世の山田宗円は二世の山田宗引の下で修行して皆伝を受けた。三世の山田宗円は流祖の山田宗徧の三男の宗健の子であり、山田宗徧からみると孫である。このように、棚倉は茶道の宗徧流を通じて京都と歴史的なつながりがある。

全国京都会議があげる小京都の3つ目の要件「伝統的な産業、芸能があること」については、①コンニャクイモの栽培、②「御田植祭」、③「霜月大祭」、④「棚倉秋祭り」がある。①コンニャクイモの栽培は、1854(嘉永7)年に入封した棚倉藩14代藩主の松平康圭が藩政改革として始めたものである。現在も棚倉町近津地区ではコンニャクイモの栽培が行われている。また、棚倉町にはコンニャク製品を製造販売する業者がある。コンニャク製品は棚倉町のふるさと納税の返礼品の1つになっている。②「御田植祭」は、毎年旧暦1月6日に八槻都々古別神社で開催している。「御田植祭」では、国指定重要無形民俗文化財の「都々古別神社の御田植」と福島県指定重要無形民俗文化財の「八槻都々古別神社の神楽」を奉納する。御田植は、八槻都々古別神社の旧社家からなる八槻都々古別神社衆人会が稲作の様子を模擬的に演じ豊作を祈願する民俗芸能である。その起源は不明であるが、室町時代にはすでに行われていたと伝えられている。③「霜月大祭」は、毎年12月第2土曜日と日曜日に開催する八槻都々古別神社例大祭である。拝殿では五穀豊穡を祈願し、前述した「八槻都々古別神社の神楽」の中で太々神楽と七座の神楽を奉納する。④「棚倉秋祭り」は、毎年10月第2土曜日と日曜日に開催する宇迦神社例大祭である。その起源は不明であるが、江戸時代前期にはすでに行われていたと伝えられている。新町組の屋台(山車)は新町商店街、い組

の屋台（山車）は古町商店街をそれぞれおはやしや和太鼓などを披露しながら練り歩く。

棚倉町の町民に対しては、棚倉町広報誌の2015年11月号と2018年10月号で全国京都会議に加盟したこと、棚倉町の小京都らしさの概要を掲載した。小京都としてのまちづくりでは、「東北の小京都棚倉」というキャッチフレーズの下、主に行政および様々な団体関わっている。

全国京都会議があげる小京都の2つ目の要件「京都と歴史的なつながりがあること」に関連する施設や行祭事は、①「玉室宗珀謫居之跡」、②「阿部正備茶室」、③「十万石棚倉城まつり」、④「秋の大茶会」である。①「玉室宗珀謫居之跡」には、石碑の他、棚倉町伝統文化活性化実行委員会が説明パネルを設置している。②2011年に移築復元した「阿部正備茶室」は、棚倉町が所有および管理している。棚倉町教育委員会では説明パネルを設置している。③茶道を体験できる「十万石棚倉城まつり」は、棚倉まつり実行委員会が主催している。④2016年に始まった「秋の大茶会」は、棚倉町教育委員会が主催している。

全国京都会議があげる小京都の3つ目の要件「伝統的な産業、芸能があること」に関連する施設や行祭事は、①コンニャクイモの栽培に関するワークショップ、②「御田植祭」、③「霜月大祭」、④「棚倉秋祭り」である。①2019年に始まったコンニャクイモの栽培に関するワークショップは、棚倉町にある一般社団法人ニワトコが主催している。参加者は、棚倉町のコンニャクイモの栽培やコンニャク製品の体験と学習ができるワークショップである。②「御田植祭」と③「霜月大祭」は、八槻都々古別神社楽人会が主催している。八槻都々古別神社には、棚倉町教育委員会が「都々古別神社の御田植」の説明パネルを設置している。八槻都々古別神社楽人会の主な活動は、八槻都々古別神社の行祭事で神楽や御田植を奉納すること、棚倉町の行祭事や八槻都々古別神社以外の神社の行祭事などで神楽や御田植を演じること、神楽や御田植の記録ビデオの作成や棚倉町の小学校などで指導を行うことである。④「棚倉秋祭り」は棚

倉秋まつり実行委員会が主催している。

小京都に関連する施設や行祭事の中では、棚倉町指定有形文化財の「阿部正備茶室」、国重要無形民俗文化財の「都々古別神社の御田植」、福島県重要無形民俗文化財の「八槻都々古別神社の神楽」の3つが文化財の指定を受けている。2012年度には、一般財団法人地域伝統芸能活用センターが主催する「地域伝統芸能全国大会福島大会ふるさとの祭り2012」において「八槻都々古別神社楽人会・御田植保存会の七座の神楽・太々神楽・御田植神事」が「第20回高円宮殿下記念地域伝統芸能賞」を受賞した。このように、棚倉町では小京都に関連する施設や行祭事が文化財の指定を受けていること、文化財の継承および地域へ伝承する活動が受賞したことにより、小京都としての町づくりでは大きく宣伝できる点であると考えられる。

行祭事は開催日しか見学できない。また、2020年と2021年は「十万石棚倉城まつり」と「棚倉秋祭り」が新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となった。2020年の「霜月大祭」と2021年の「御田植祭」は縮小開催となった。このようなことを考慮し、今後は行祭事の解説パネル、「都々古別神社の御田植」や屋台（山車）などの道具、過去の映像を行祭事の開催日以外でも見学できる場所の整備が求められる。展示場所としては、磐城棚倉駅の駅舎、磐城棚倉駅に近い新町商店街や古町商店街の空き店舗、磐城棚倉駅前にある棚倉町図書館、棚倉町文化センター「倉美術館」、入込数が20万人台と多い「JA東西しらかわ農産物直売所みりよく満点物語」などの活用が考えられる。その他、観光施設は点在しているため、磐城棚倉駅前では来訪者の移動手段の1つになるレンタサイクルの導入が求められる。また、観光パンフレットや各施設に設置している説明パネルは、インバウンドに対する多言語表記の充実が求められる。

棚倉町の小京都に関連する施設や行祭事は古くからのものが多いが、全国京都会議に加盟した2015年以降は新しい行祭事も始まった。今後は小京都という枠組みの中でどのような町づくりを展開するのか注目していきたい。

謝辞

本稿の作成にあたっては、メールでの聞き取り調査に協力していただいた棚倉町観光協会の皆様と、聞き取り調査に協力していただいた和洋菓子K店の皆様に大変お世話になりました。ここに記して心より感謝申し上げます。

参考文献・資料

- ・荒山正彦 (2000) : 観光の経験(7) 小京都から小江戸へ——都市にそそがれるまなざし. 地理45-3、古今書院、66-71.
- ・一般財団法人地域伝統芸能活用センター (2012a) : 地域伝統芸能全国大会福島大会ふるさと祭り2012. http://www.dentogeino.or.jp/cms/content/files/tournament/33_20_fukushima.pdf
- ・一般財団法人地域伝統芸能活用センター (2012b) : 平成24年度受賞者. <http://www.dentogeino.or.jp/cms/content/files/prize/h24.pdf>
- ・一般社団法人ニワトコ (2019) : 棚倉・矢祭の名産「こんにゃく」のこと、もっと知ろう!. <http://www.niwatoco.jp/assets/files/棚倉・矢祭チラシ.pdf>
- ・伊東富昭 (1993) : 紫衣事件. 村上 直編 : 近世史用語事典. 新人物往来社、130.
- ・上田正昭・西澤潤一・平山郁夫・三浦朱門監修 (2002) : 山田宗円. 日本人名大辞典、講談社、1978.
- ・上野 裕 (2009) : 「小京都」論と「大京都」形成——歴史都市京都の近代化. 大阪経済法科大学地域総合研究所紀要第2号、91-100.
- ・内田順文 (2015) : 小京都に見る日本の風景のイメージ. 国士館人文学5、国士館大学文学部人文学会.
- ・香月 歩・奥山信一 (2017) : 観光パンフレットの言語表現にみる「小京都」を掲げる街のイメージ形成の枠組み : 場所のイメージ形成の枠組みに関する研究 その2. 日本建築学会計画系論文集731、251-261.
- ・香月 歩・奥山信一 (2018) : 観光パンフレットの言語表現にみる「小江戸」および「小京都」を掲げる街の価値の階層構造 場所のイメージ形成の枠組みに関する研究 その3. 日本建築学会計画系論文集752、2055-2065.
- ・広辞苑 (2018) : 紫衣事件. 岩波書店、第七版、1244.
- ・広辞苑 (2018) : 謫居. 岩波書店、第七版、1808.
- ・国土交通省水管理・国土保全局 (2008) : 久慈川水系流域及び河川の概要. https://www.mlit.go.jp/river/basic_info/jigyo_keikaku/gaiyou/seibi/pdf/kuzigawa26-5.pdf
- ・酒井宣昭・吉田由希子 (2017) : 宮城県村田町における小京都としての町づくりの展開とその特徴. 東北学院大学東北文化研究所紀要49、29-41.
- ・旬刊旅行新聞 (2012. 3. 12) : 高円宮殿下記念地域伝統芸能賞 八槻都々古別神社楽人会・御田植保存会が受賞.
- ・全国京都会議 (2017) : 小京都とゆかりのまち棚倉.
- ・高埜利彦 (2006) : 紫衣事件. 世界大百科事典12. 平凡社、42.
- ・棚倉町教育委員会 (2015) : 魅力再発見 !! 棚倉さんぽ道.
- ・棚倉町教育委員会編 (1982) : 棚倉町史 第1巻 通史編.
- ・棚倉町教育委員会編 (1983) : 棚倉町史 別巻3 東白川郡沿革私考.
- ・棚倉町教育委員会編 (2019) : 棚倉町歴史文化基本構想.
- ・棚倉町広報誌「たなぐら」(2015年11月号、No. 683) : 秋の棚倉に小京都を見る. 地域創生課、3-7.
- ・棚倉町広報誌「たなぐら」(2018年10月号、No. 718) : 特集1「東北の小京都 棚倉」. 地域創生課、2-3.
- ・棚倉町物産振興会 (2017) : ぐるり TANAGURA たなぐら.
- ・棚倉町役場企画情報課 (2016a) : 棚倉町町勢要覧 資料編.
- ・棚倉町役場企画情報課 (2016b) : 棚倉町町勢要覧 本編.
- ・棚倉町役場総務課 (2020) : 棚倉町ふるさと納税

- 御礼品カタログ. www.town.tanagura.fukushima.jp/data/doc/1619490845_doc_24_0.pdf
- ・棚倉町役場地域創生課・棚倉町観光協会 (2017) : タウンガイドたなぐら, 12-13.
 - ・棚倉町役場地域創生課編 (2020) : 棚倉町歴史的風致維持向上計画.
 - ・田邊健人・岩佐明彦 (2012) : 7-6 新潟県加茂市に現存する蔵: 外観要素による分析 (計画系). 日本建築学会北陸支部研究報告集55, 581-584.
 - ・筒井紘一 (1987) : 宗徧流. 相賀徹夫編: 日本大百科全書14. 小学館, 109.
 - ・筒井紘一 (2006) : 宗徧流. 下中直人編: 世界大百科事典16. 平凡社, 337.
 - ・大日本人名辞書刊行会著 (1974) : 山田宗円. 大日本人名辞書 第4巻. 講談社, 2748.
 - ・東北農政局福島農政事務所: 福島農林水産統計年報各年版.
 - ・戸田勝久 (1987) : 宗徧流. 国史大辞典編集委員会編: 国史大辞典8. 吉川弘文館, 585-586.
 - ・戸田勝久 (1993) : 山田宗徧. 国史大辞典編集委員会編: 国史大辞典14. 吉川弘文館, 171.
 - ・富田幸憲 (2018) : 地域の観光資源を活かす「みちのくの小京都」(角館の街路整備特集 地域活性化の推進: 地域の特性を活かしたまちづくり). 月刊建設62-5, 22-24.
 - ・日本経済新聞 (2015. 11. 13) : 日本人の心も豊かに 小京都30年とこれから (4).
 - ・農林水産省: 2015年農林業センサス.
 - ・農林水産省: 2017年産福島県市町村別農業産出額 (推計).
 - ・服部銚二郎 (1984) : 都市の表情 らしさの表現像. 古今書院.
 - ・日野尚志 (1986) : Ⅲ. 暮らしに生きる歴史 2. 小京都の暮らし. 山崎謹哉編: 暮らしの地理学, 古今書院, 48-55.
 - ・福島県企画調整部統計課: 福島県統計年鑑各年版.
 - ・福島県立修明高等学校 (2020) : 滅大火 (めだか) 鑑賞桶設置. <https://shumei-h.fcs.ed.jp/wysiwyg/file/download/1/1808>
 - ・福島民友新聞 (2004. 1. 30) : ころに残す ふくしまの風景 八槻都々古別神社 (棚倉町).
 - ・福島民友新聞 (2016. 11. 27) : 食物語・刺し身ころにやく 特別な日の食卓飾る 水戸藩から伝わる.
 - ・松崎憲三 (2007) : 「小京都」と「小江戸」——「うつし文化」の基礎的研究. 日本常民文化紀要 26, 1-34.
 - ・馬淵公介 (1997) : 小京都と小江戸. 歴史読本 42-9, 新人物往来社, 156-161.
 - ・丸井佳寿子 (1988) : 棚倉藩. 国史大辞典編集委員会編: 国史大辞典9. 吉川弘文館, 258-259.
 - ・三橋 健編 (2016) : ガイドさんの一言 御田植を受け継ぐ地域の取り組み 古市泰久さん (棚倉ふるさとガイド). 日本の神社大全 第1巻 北海道・東北. デアゴスティーニ・ジャパン, 247.
 - ・宗田哲夫 (1990) : 棚倉地方の郷土文化史. 棚倉史談会: 棚倉史談 第8号, 24-27.
 - ・村井康彦 (1975) : 小京都へ. 平凡社.
 - ・山田芳則 (1990) : 赤館氏について. 棚倉史談会: 棚倉史談 第8号, 39-45.
 - ・山田芳則 (1997) : 赤館氏について. 棚倉史談会: たなぐら史談抄 [再編復刻版], 108-120.

注

- ▼1 棚倉藩の歴代藩主と在任期間は、丸井 (1988)、福島県棚倉町地域創生課・棚倉町観光協会 (2017) によると、①初代藩主は、1606 (慶長11) 年に筑後柳河 (現、福岡県柳川市) から移り住んだ立花宗茂である。在任期間は1606 (慶長11) ~1620 (元和6) 年である。続いて、②丹羽長重は1622 (元和8) ~1627 (寛永4) 年、③内藤信照は1627 (寛永4) ~1665 (寛文5) 年、④内藤信良は1665 (寛文5) ~1674 (延宝2) 年、⑤内藤式信は1674 (延宝2) ~1705 (宝永2) 年、⑥太田資晴は1705 (宝永2) ~1728 (享保13) 年である。また、⑦松平武元は1728 (享保13) ~1746 (延享3) 年、⑧小笠原長恭は1746 (延享3) ~1776 (安永5) 年、⑨小笠原長堯は1776 (安永5) ~1812 (文化9) 年、⑩小笠原長昌は1812 (文化9) ~1817 (文化14) 年、⑪井上正甫は1817 (文化14) ~1820 (文政3) 年である。さらに、⑫井上正春は1820 (文政3) ~1835 (天保6) 年、⑬松平康爵は1836 (天保7) ~1854 (嘉永7) 年、⑭松平康圭は1854 (嘉永7) ~1862 (文久2) 年、⑮松平康泰は1862 (文久2) ~1864 (元治元) 年、⑯松平

- やすひで
康英は1864(元治元)～1866(慶応2)年、⑰阿部
正静は1866(慶応2)～1868(明治元)年、⑱阿部
まさこと
正功は1868(明治元)～1871(明治4)年である。
- ▼2 日本経済新聞の記事(2015年11月13日)によると、棚倉町は基準を超える放射線被害がみられなかった。なお、福島第一原子力発電所とJR水郡線磐城棚倉駅は直線距離で約71.9km離れている。また、福島第一原子力発電所と棚倉町役場は直線距離で約72.6km離れている。
 - ▼3 大徳寺の開創は、大徳寺のWebサイト(http://www.rinnou.net/cont_03/07daitoku/)によると1315(正和4)年である。所在地は京都市北区紫野大徳寺町53である。
 - ▼4 江戸幕府3代将軍徳川家光の在職期間は、1623(元和9)～1651(慶安4)年である。
 - ▼5 単伝士印と東源慧等の生没年は、国史大辞典や近世史用語辞典、世界大百科事典、広辞苑などに記載がなく不明である。
 - ▼6 芳春院は、1608(慶長13)年に開創した。開基は加賀藩の前田利家の夫人芳春院で、開山(開祖)は玉室宗珀である。前田家の菩提寺である。芳春院については、文末脚注8に示す通り、「玉室宗珀謫居之跡」の石碑の最後の方に記されている。芳春院の所在地は、京都市北区紫野大徳寺町55である。
 - ▼7 赤館公園と「玉室宗珀謫居之跡」の石碑がある場所の現在の地名は、棚倉町風呂ヶ沢である。赤館公園は約300本のサクラの木や休憩室、野外ステージ、散策路、無料駐車場20台などがあり、棚倉町では花見の名所の1つとなっている。「玉室宗珀謫居之跡」は、光徳寺はなく畑として利用されている。なお、「謫居」とは、広辞苑(2018)によると「罰をうけて、ひきこもっていること。また、辺鄙の地に配流されること。また、そのすまい。」のことである。
 - ▼8 「玉室宗珀謫居之跡」の碑文には、『寛永四年(一六二七)大徳寺・妙心寺などの僧への紫衣着用の勅許を江戸幕府が無効としました。このことで、後水尾天皇は退位を決意し、幕府の処置に反対した大徳寺の僧、沢庵宗彭、玉室宗珀(芳春院の住職)、江月宗玩らは処罰され、寛永六年に沢庵は出羽上山、玉室は棚倉に流罪となります。この事件を「紫衣事件」といいます。紫衣とは高德の僧尼に対し、朝廷が与えた紫色の法衣・袈裟のことで、紫衣着用の勅許は朝廷の権限に属していました。幕府は紫衣事件で朝権に対して幕権が優越することを明確にしました。玉室は、寛永九年に赦免されるまで、この地にあった光徳寺の庵に住み、棚倉藩主内藤信照によって手厚く庇護されました。芳春院は、慶長十三年(一六〇八)、前田利家の夫人の松子が玉室を開祖として建立した大徳寺の塔頭で、前田家の菩提寺です。』との記載がある。
 - ▼9 長徳寺の所在地は、京都市上京区菊屋町255である。三寶寺の所在地は、京都市右京区鳴滝松本町32である。
 - ▼10 茶道宗徧流不審庵のWebサイトは、<https://sohenryu.com/>である。2021年7月7日閲覧。
 - ▼11 三寶寺のWebサイトは、<http://www.sanbouji-kyoto.or.jp/>である。2021年6月29日閲覧。
 - ▼12 棚倉町役場棚倉町生涯学習人材バンクの棚倉茶道会のURLは、<http://www.town.tanagura.fukushima.jp/page/page001182.html>である。2021年7月18日閲覧。なお、棚倉茶道会のWebサイトはない。
 - ▼13 棚倉町文化センター「倉美館」の所在地は棚倉町大字関口字一本松58、阿部正備茶室の所在地は棚倉町棚倉大字城跡字23、蓮家寺の所在地は棚倉町大字棚倉字新町129である。長久寺の所在地は棚倉町大字花園字沢目176、如意輪寺の所在地は棚倉町大字八槻字大宮119である。八槻都々古別神社の所在地は棚倉町大字八槻字大宮224、山本不動尊の所在地は棚倉町大字北山本字小檜沢9-2である。
 - ▼14 1897(明治30)年の石井可汲著『東白川郡沿革私考』は、棚倉町教育委員会が1983年に史料集の『棚倉町史 別巻3 東白川郡沿革私考』として刊行している。石井可汲は、刊行年不明であるが『伊乃草分けしぞうならびにじよ分地蔵并序』や、1904(明治37)年に刊行した『棚倉沿革私考』などの棚倉町の歴史書を編纂している人物である。
 - ▼15 「阿部正備茶室」の棚倉町指定有形文化財の指定年月日は、「阿部正備茶室」にある棚倉町教育委員会の説明パネルと、棚倉町役場企画情報課(2016a)によると2006年3月24日である。
 - ▼16 「都々古別神社の御田植」の国重要無形民俗文化財の指定年月日は、八槻都々古別神社にある棚倉町教育委員会の説明パネルと、棚倉町役場企画情報課(2016a)によると2004年2月6日である。一方、「八槻都々古別神社の神楽」の福島県重要無形民俗文化財の指定年月日は、棚倉町役場企画情報課(2016a)によると1979(昭和54)年3月23日である。
 - ▼17 「時の鐘ポケットパーク」は、棚倉町歴史文化基本構想(2019)によると2003年に棚倉町中心市街地活性化事業により棚倉町と友好都市である埼玉県川越市の「時の鐘」を模して建設したものである。
 - ▼18 旧暦1月6日は、2021年は2月17日(水)である。

なお、2020年は1月30日(木)、2022年は2月6日(日)である。

- ▼19 例えば、「めばらい」は餅鋏で堀を手入れする作業で「がり、がり、がり」とせりふを言いながら演じる。「くろばおとし」は餅鋏で畦を整える作業で「さっく、さっく、さっく」とせりふを言いながら演じる。「畦ぬり」は畦をぬる作業を「がんぶり、べたり、どろり、べったり、べった、べった」とせりふを言いながら演じる。「鳥追い」は鳥を追い払う様子を「からーす、からーす」とせりふを言いながら演じる。「天狐の舞い」は稲荷の神と考えられている白い狐のお面を着け、肩に餅鋏を担いだ舞手が四方を耕しながら舞う。
- ▼20 2020年12月12日(土)の和洋菓子K店での聞き取り調査によると、毎年3月28日には棚倉小学校の近くにある秋葉神社に棚倉町消防団などが集まって無火災祈願を行っている。秋葉神社の所在地は、棚倉町大字棚倉字北町地内である。
- ▼21 一般社団法人ニワトコは、当 Web サイトによると「行政・民間事業者への施設及び事業の提案、イベント・セミナーの企画運営、人材育成のための教育、出版事業などを通じ、町おこしの推進、地域の歴史・文化の承継、里山の景観と生態系の維持など、地域の伝統、技術、文化を次世代へ承継させることを目的とした事業」を行っている。設立は2019年2月25日である。現在の主な事業は、福島県南地域の伝統文化を活字にする「おでやれ文庫」の刊行、盆踊り「はねっこ」の聞き取り調査である。この「おでやれ」とは、「みんな集まれ、出ておいで」という意味で「御田植」のせりふにもある。一般社団法人ニワトコの Web サイトは<http://www.niwatoco.jp/index.html>。2021年8月24日閲覧。
- ▼22 「棚倉秋祭り」が視聴できる Youtube は、「棚倉秋祭り2019」(https://www.youtube.com/watch?v=dMY_YV3SgtY)、「Autumn festival 2019/棚倉秋祭りに行ってきました」(<https://www.youtube.com/watch?v=HtMRlcB9LWc>)、「棚倉町観光 PR 動画 Vol.2 (秋まつりと二つの一宮)」(<https://www.youtube.com/watch?v=WvGfEUHiNrI>) などである。2021年8月25日視聴。
- ▼23 地域伝統芸能活用センターの所在地は、東京都中央区東日本橋2-24-12東日本橋横町ビル5階である。Web サイトは<http://www.dentogei.or.jp/index.php> である。2021年8月14日閲覧。「地域伝統芸能全国大会」は年1回、国内および海外地域の伝統芸能が一堂に集まって競演する全国大会である。

一般財団法人地域伝統芸能活用センターの資料(2012a)によると、2012年大会は10月27日～28日に郡山市民文化センターを会場に開催した。出演団体は福島県内13団体を含む25団体で、主な出演団体は「大宮さんさ踊り保存会の盛岡さんさ踊り」(盛岡市)、「ぎょうざんりゅうみとべししおどり行山流水戸辺鹿子躍保存会の行山流水戸辺鹿子躍」(宮城県南三陸町)、「こじんじょたいこ御陣乗太鼓保存会の御陣乗太鼓」(輪島市)、「小松獅子保存会の小松彼岸獅子舞」(会津若松市)、「ふるどのまぢやぶさめ古殿町流鑼馬保存会の古殿八幡神社流鑼馬」(福島県古殿町)、「いわき特設高校生フラガールズのフラ&タヒチアンダンス」(いわき市)、「でんれんどうそうづげいじョつだん傳練堂綜合藝術團の台湾伝統芸能 台湾龍舞(ウーロン)」(台湾台中市)、「チヨルラフクトチヨルシユノルマル舞踊団の韓国伝統芸能 扇の舞」(韓国全羅北道全州市)である。総観客数は41,500人であった。